

難しいし、まだまだこれからも、いろいろとぼくも食べ歩かないといけないなどは思っているんですけども。その基本は郷土料理、家庭料理だと思うんですね。

イタリアがあれだけすごい食大国になっているのは、基本的にはマンマンの味なんですよ。だからそういう家庭料理の延長にいろんな食文化、各地域の料理を持ってきているわけですしね。パスタにしても、スパゲティにしても、各地域で全部違う形のいろんなパスタが作られていたりとか、そういう何か地方色というのは何であんなに豊かなのかなど、イタリアという国は中央集権国家じゃなかったというのもあるし、それぞれ別々の国として発達したという歴史もあるんでしょうけれども、何かそのあたりの、あまり流されずに目先の何というか利益というか、売ることよりも、やっぱり長い目で見て、ずっとこれが残るべくして残るようなものをどうこだわって作っていくかという感じはしていますけどね。ちょっと漠然とした答えで申し訳ありませんけれども。

○女性： どうもありがとうございました。

○MC： ありがとうございます。さあ、クイズ番組のことから、最後のまとめになるような質問まで、皆さんにさせていただきましたが、もう間もなく終わりの時間が近づいてまいりましたので。

○辰巳： もう大丈夫ですか。大丈夫ですかって、質問なかったら終わっちゃいますよ。

○MC： はい。では辰巳さん、一番最後になりますけれども、きょうお集まりの皆さんにひとことお願いいたします。

○辰巳： ひとこと。何でしょうね。何か分からないんですけど、変な言い方ですけど、福島って非常に不思議なところで、なかなか本当にいまだにぼくもちゃんとつかんでいるわけじゃないんですよ。でも何か来る度にいいと思わせる何かがあって、そういう空気があって、そういう人がいてみたいな、これはやっぱりひとつの、こうなんだとちゃんと明文化できないものなんですけれども、でも本当はそういうものって多分大事なんだろうなという気もどこかでしてしまってますね。そのあたりの多様性、文化という言葉、文化という言葉も非常にあいまいなものですけれども、これもやっぱり文化で何が一番大事かという、やっぱり多様性なんですよ。いろんなものがあって、いろんなところにいろいろな存在がいて、いろんな味があって、これが重層的にその空気感でその地域を作っていくみたいなのうにぼくは信じていますので、そういうものをずっとそれぞれが、それぞれの家庭のそれぞれの味も残しつつ、それに逆に自信を持って、ずっとつなげていただければいいと思います。

それをももちろん発見して、あるいは発掘して、伝えていくという我々の仕事だと思っていますし、あまり世の中いまだどんどんテクノロジーというのは、もう本当にいろいろなものをどんどん変えてしまったり、変わらざるを得ないものもたくさんあるとは思いますが、それにどれだけ踏ん張れるかみたいな部分じゃないかと思うんですよ。さっきのくじら汁にしましてもね、やっぱりこんないろんな国際社会の中で、くじらが本当に取れなくなってきて、これからどうするんだみたいな話も、そんな話いっぱいあるんですけどね。いまサンマにしましてもね、サンマってある種、いま思い出したんですけど、福島県の一人当たりの漁獲高かな、確か日本一だったんですけどね。サンマ自体もどんどん、サンマをはじめいろんな魚も減っていますね。どんどんほんとに変わっていますけれども、その中で、でもずっとあるのはこの風景と、いい水と太陽の光があれば、何でもできそうな気がしてくるんですね。昨日もちょっと縄文時代とか弥生時代の話をしていましたけども、そういう日本というのは世界的に見てもものすごく豊かな国なんです。本当にこんなに緑がたくさんある国はないし、こんなに雨が多いところもないし、雨って恵みなんですよ。天気が雨が降っていやだなとか思うかもしれませんが、ワインの業界の連中に言わせると、日本は雨が降って湿気が多くて、そんないいワインは作れないよとか言うんですけどね。

ワインというのは中近とか地中海を中心に、ローマ帝国が広めたものなんですけれども、あれは何かと言うと、ブドウしか作れなかったんです。ブドウとかオリーブくらいしか、雨も少なく暑くて、痩せた土地でそんなものしかなくて、そのままずっと続いてきて、これまでそのワイン文化として連綿と引き継がれてきたというのは、それしかなかったからというね。日本って何でもできるんですよ。ものすごくそういう意味で選択肢も多いと思いますし、そういう気持ちで、何かこんなに農業に向いた国はないとぼくは思っていますしね。技術もすごいと思いますしね。そのあたりでもうちょっとその辺の、ちょっとだけ何か意識、ちょっと変えることによって、消費

動向も変わるような気がするんですよね。そんな話かな。

○MC： そうですね。もっともっと皆さんで福島のことを盛り上げて、発信していけたらいいでしょうね。

○辰巳： 本当にきょうはあまり最後までまとまらない話で申し訳ないんですけども、そういういろんなものがあるというのが、日本酒もそうですけど、これが福島だというのは自信を持っていいと思いますし、ぼくもそういう目で見ても、またいろんなことを知って、いろんなふうに応援したいと思いますし、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。

○MC： さて、これをもちまして、「第11回食育推進全国大会 in ふくしま」特別講演を終了させていただきます。辰巳琢郎さんでした。皆さん、大きな拍手でお送りください。皆さま、ありがとうございました。この本大会は16時30分まで開催されておりますので、皆さまぜひこのあともお楽しみください。どうもありがとうございました。